野芥遺跡第 19 次調査概要

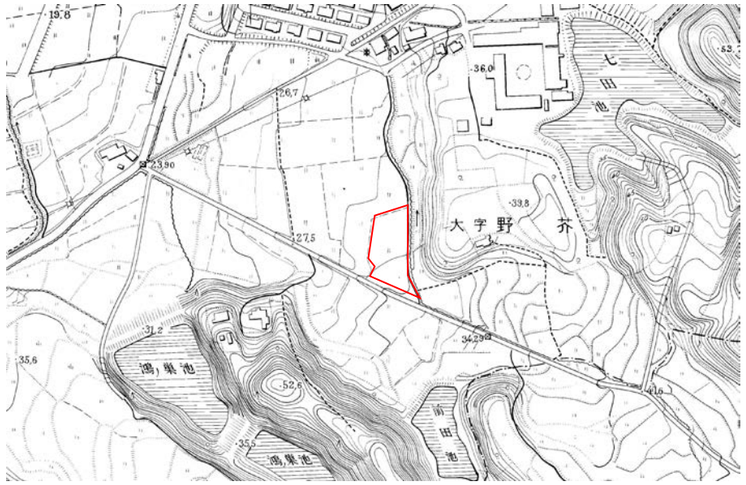
2020.9　　福岡市埋蔵文化財課

福岡市埋蔵文化財課では、令和2年3月から9月まで、早良区野芥5丁目で発掘調査を行いました。調査概要をお知らせします。

今回の調査では古墳時代の集落を中心に、奈良時代の製鉄跡、平安時代の土器だまりなど各時代の生活の痕跡が重なって出土しました。確認した遺構（穴）の数は約 600 基、出土遺物はコンテナケース約 50 箱分です。

確認した遺構（穴）の多くは6世紀終わりから7世紀初め（古墳時代後期）の竪穴住居や倉庫の柱穴などの集落の跡です。竪穴住居は 10 棟以上、倉庫 2 棟を確認しています。周辺にはこの時代の集落が広がると考えられます。

また、縄文時代の石鏃などの石器、土器片が出土し、古くからこの土地で人々が活動していたことを伺うことができます。



昭和36（1961）年

昭和 30 年代前半か

調査地点の位置 （赤枠） 開発がすすむ前の地図と写真です。周辺の起伏に富んだ地形がわかります。

2区（北西側）南から　四角形の穴が住居跡です。

1区（北東側）南から

調査は 3 つの区に分けて行いました。地形は南東から北西に向かって下がっています。

写真は主に古墳時代の集落の広がりです。奈良時代の製鉄跡や平安時代の遺構は、これより 10～20 ㎝上の高さで確認しました。各時代の生活面が重層的に重なっていました。

左の図からはこの地が丘陵に接した地形の変換部にあたり、近くに谷があることが伺えます。製鉄跡の立地として典型的な地形です。

3区（南東側）北から　　左側には奈良時代の河川が流れています。

【平安時代】　平安時代終わり、12 世紀前半頃の竪穴、土器などを確認しました。

土器を捨てた跡　土師器、瓦器の椀 50 個以上が置かれた状態で出土しました。政（まつりごと）、宴会？のあとでしょうか。

平安時代の土器（瓦器）

【奈良時代】 8 世紀　製鉄炉と小さめの穴、川の跡を確認しました。

製鉄炉群　4 基の炉が接して出土しました。同時操業ではなく、この場所が繰り返し使われたと考えられます。

製鉄炉　中央の黒い部分（炉床）に炉を築き、両側の穴に不純物（鉄滓）を流します。下図参照。

河川　炉の東側には幅2mほどの川が流れ、土器、鉄滓が多く出土しました。川は粗砂で埋まっていました。

製鉄作業（想定図）　燃えさかる炉に砂鉄（左）と木炭（右）を入れている様子です。横の穴に不純物（鉄滓）が流れ出ています。

【古墳時代後期】　6 世紀後半から 7 世紀初めの住居、倉庫などの集落を中心に確認しました。

竪穴住居　やや小型の住居跡。カマドには支え石（写真右）が残っています。

竪穴住居　一辺 6.5mで大型の方形住居跡です。奥にカマドを築いています。

竪穴住居　床には多くの浅い穴がみられます。竪穴を掘った時の鋤などの跡もありそうです。

掘立柱建物　3つの大きめの柱穴が3列並んでいます。倉庫の柱穴と考えられます。

古墳時代の土器（須恵器）　6、7 世紀

【縄文時代・弥生時代】 住居跡などは見つかっていません。狩りなどをする場だったのでしょうか。

土器片　縄文晩期（下）・弥生早期（上）

石鏃（矢じり）　縄文時代

石匙（いしさじ）　切る、削るなどの用途が考えられます。　縄文時代